

周りの人のことを 考えた行動が 健全な社会につながる



私は一人ひとりが自主的に行動し健全な社会につながるためには、周りの人のことを考えた行動が必要だと考えています。このことは私が日頃から意識していることです。私は今回の「青少年健全育成大会」という大会名から、「健全」という言葉の意味を考えてみました。私なりに考えた「健全」とは、人や周りのことを考えて行動することだと思えます。

「人の気持ちを考えなさい」皆さんもこの言葉を小さい時からよく耳にしてきたのではないのでしょうか。実際この言葉はとても大切な言葉であると私は考えています。

私は現在、評議委員としてクラスをまとめ、誰もが楽しくい

られるようなクラスになるよう、クラス全体にとって良いことと良くないことを考え、私自身がクラスにとつてどんなことができるかを日々意識して行動するように心がけています。そんな私のところには日ごろクラスメイトからたくさんのお悩みが寄せられます。「授業中におしゃべりしている人の声が大きくて先生の声が聞こえにくい」や「掃除をサボっている人がいる」などです。このような悩みを受け、私は一人のお悩みは一人だけの悩みではなく、クラス全体の悩みではないかと思っています。私は評議委員として、周囲の人のためにできる行動をとりたいと考えるようになりました。そして今では、一人ひとりが楽しんでいるようなクラスに私だけでなくみんなで作っていきたいと思うようになりました。

授業中のおしゃべりや掃除をサボるなどの自分勝手な行動は周りの人のことを考えていない行動であるといえ、このような行動が広まることは健全なものではないと私は考えています。

高須中学校

二年

浅井 あさい

優奈 ゆな

では、一人ひとりが健全に周囲のことを考え、行動すると何がどう変わると思えますか。私は主に二つあると考えています。

一つ目は、自分から行動できるようになるとのことです。

周囲の人のことを思うことで、「〇〇してあげる」という行動から「自主的に自然と行動する」と変化していくと思います。

二つ目は、先のことを考えて行動できるようになるとのことです。周囲の様子を見て、今何をすべきで、何をすべきでないかを理解したうえでとるべき行動をとれるようになると思います。

以上の二つのような考え方や行動の変容はみんなが思いやりの心をもった「助け合える社会」につながると考えます。

私は自分自身の実体験から、周りの人のことを考えた行動をするためには、ほかの人に対して先入観をもたないようにすることが大切だと気付きました。私はクラスに苦手な人がいました。授業中の私語で授業を止めたり、授業中にあわてて授業の準備をしたりしてとにかく自分勝手な行動が目立っていました。私は無意識的にその人から距離を取り、必要最低限のかかわりしかもっていませんでした。ある日、私が放課後に黒板掃除や机の列をきれいに並べていた時、私の先入観から苦手意識

をもっていた彼が一緒に手伝ってくれたのです。予想外の行動にびっくりしました。でも、彼なりの気遣いなのだと気づくことができました。それと同時に私は彼がどういう人なのか、決めつけてしまっていたことにも気づきました。そのことから、どんな人にも周囲を気遣う心はあるのだと思うことができ、先入観をもたずに人のことを見ていかないだめだと考えられるようになりました。そして、一人ひとりを見ることも大切ですが、もう少し視野を広くして周囲全体も見て行動しなければならぬと思いました。

以上の実体験などから、私は周りの人のことを考えた行動が広まっていくことで健全な生き方の広まりや健全な社会に近づいていくのではないかと考えました。



わたしのまち

向洋中学校

二年

ほんだ
本田

ひな
陽菜



「みんなのまちや地球のため、今できることを頑張ります。」

私はこれを聞いた時、自分が生まれ育ったこの町で、私がこのまちの一員としてきたこと、私たちがまちのためにまちの人た

ちがしてくれたことについて考えました。

皆さんは、自分みんなのまちや地球の一員だと胸を張って言えますか。また、どのようにまちの人たちと関わってききましたか。そして、今私たちはまちのために何をする事ができるのでしょうか。

そこで私は三つのことについて考えてみました。

一つ目は、私がこのまちの一員として今までやってきたことです。私はコロナ禍になる前、他校やまちの人との交流行事、ボランティア活動に参加していました。交流行事では、スポーツやお菓子作り体験、お祭りを通し、交流を行ってきました。

これらのボランティア活動を通して私たちのまちはほとんどごみもなく、「きれいで住みやすいまち」という印象が感じられました。それは、このまちに住んでいる人の努力で保たれているとともにとても誇らしい気がつきました。

二つ目は、このまちの人にしてもらったことです。スクールヘルパーさん、公民館や市民センターの人たちは、登下校などで会った時よく挨拶をしてくれます。また、私の母が入院した時に、友達のお母さんや私の祖父母が気にかけてくれました。会った時、声をかけてくれたり、電話をしてくれたり、「手伝えることがあったら言ってね。」と言ってくれました。小さいころ住んでいた社宅では、みなでお花見やお祭り、毎日夕方くらいまで遊んでいました。このように、してきてもらったことは、嬉しくて、心が温かくなったものばかりでした。

この二つから、このまちには、愛があふれていると思います。親が自分の子供や自分の家族を愛するように、このまちの

人たちは私たちのこと、このまちのことを大切に見守り、愛しているのだと感じました。

三つ目は、私が今できることです。私は大人になってもこのまちで生きていきたいと感じています。それは、自分が生まれ育ったこのまちを愛しているからです。だから私は将来の夢である看護師になるため大人になるまでにいっぱい勉強して、きれいなこのまちを維持していきたいから、ボランティア活動などに参加し、普段から挨拶を意識していきたいと思いました。また、より良いまちを作ってくれているすべての人に感謝をすることが今の私のできることだと思います。

以上の三つから、私は「相手を思い行動することは、誰かの未来につながるがっている。」と考えました。それは、愛のある思いやりの心という優しさがあるからだと思います。

今回私が考えたのは、私が生まれ育ったこの大切なまちへの思いとできることだけです。私一人だけが勉強すること、ボランティア活動に参加すること、挨拶をすること、感謝することだけじゃ、このまちにも、地球に対してもほとんど貢献できるわけじゃないと思います。だけど、まちの人や地球に住んでいる人の挨拶や、ボランティア活動などを当たり前と思わず感謝

を忘れないことをこの先、大人になっても忘れず、まちの地球の一員として生きていきたいと思っています。



今、私にできること

若松中学校 三年 鎌田 かまだ 幸 さち



私が、みんなの町のために、今、できると思ったこと。それは、北九州市の海を綺麗に保つことです。

私が暮らしている北九州市には、北九州工業地帯があります。

そこは重化学工業を中心に発展し、四大工業地帯として栄えましたが、その一方で、深刻な公害に悩まされることになりました。特に1960年代には、北九州市の大气汚染は国内最悪を記録し、洞海湾は工場廃水によってひどい汚染が起きました。当時、北九州市の空は「ばい煙の空」と、洞海湾は「死の海」と呼ばれていました。そんな困難を乗り越えて、今の北九州市があります。だからこそ、今では環境問題への取り組みが、盛んに行われています。こうした、今の北九州市の状況を未来に繋げていくために、私にもできることはないかと考えました。

北九州市が、昔、深刻な公害に見舞われたことを、私は小学生のときの社会科の授業で初めて知りました。だからといってそのときはまだ、どうにかしようとも思うこともなく、ただ私たちの暮らす北九州市で過去に起こったことを知識として得ただけでした。それから、昔起こった公害のことなど意識しない日が続き、私にも海をきれいにするためにできることがあるのではないか、そのようなことは考えもしませんでした。

しかし、転機がおとずれました。ある日、私が海に行つたときのことです。そこで私は、たくさんのごみが浜辺に漂着しているのを見ました。家に帰ってから調べてみると、漂着ごみは、陸や船上から海に捨てられたごみや、川に捨てられたごみのほか、道路や屋外に捨てられて放置されたごみが雨風によって川に入り、やがて海に流出し、海流や風によって海岸に流されてきたものだと分かりました。このことを知って、公害と聞いたときには規模が大きすぎて、私にできることなんてないのでは

ないかと思っていました。海を綺麗に保つためにできることなら、私にもあるのではないかと思いました。

海を汚しているたくさんのごみの中で私が注目したのは、プラスチック製のごみです。プラスチック製のごみは、時間が経つにつれ劣化と破砕を重ねて、マイクロチップになります。それには漂流の過程で汚染物質が表面に付着し、それを誤飲した海洋生物への害が、現在、問題視されています。かつて、洞海湾は生き物が住めないほど汚染されていたことから「死の海」と呼ばれていたと言われています。

ということは、現在、問題視されているプラスチックのごみ問題と、過去に、北九州市で起こった公害は、海洋生物が被害を受けているという点において、共通しているのだとわかりました。私は、「このままでは昔と同じ悲劇を繰り返してしまうかもしれない」と、危機感を覚えました。

このことをきっかけに、海を綺麗に保つためにできることについて、私は真剣に考えるようになりました。海を綺麗に保つために私にできること、それは、ごみを海に捨てないことです。もちろん、海のごみにだけ気を配るのではなく、屋外に放置されたごみそのままにせず、ごみのポイ捨てなども絶対に行わないようにします。これらはとても当たり前前のことです。しかし、

このような当たり前前のことを当たり前前にできていない人がいます。だから、漂着ごみ問題が発生するのです。

しかし、私たち一人一人が、当たり前前のことを当たり前前に意識して、行動することで、漂着ごみ問題は解決に近づくと意思します。また、若松中学校の代議員の年間目標は、「当たり前前のことを、当たり前前にできるようにしよう。」です。これは学校内の目標ですが、それだけに留めず、日々の生活をしていくなかでもこの目標を胸に私は、今も、そして、これからも、北九州市の綺麗な海を守るように、私にできることを私のできる範囲できちんといきたいと思っています。

